

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 2 月 19 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/19 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系:約1.9m <sup>3</sup> /h	18.3	106.0 kPa abs	A系: 0.00*2 Vol%
		給水系:約2.5 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系:約3.4m <sup>3</sup> /h	32.3	6.87 kPa g	A系: 0.04 Vol%
		給水系:約1.9 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.04 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系:約3.5m <sup>3</sup> /h	31.4	0.24 kPa g	A系: 0.16 vol%
		給水系:約1.9 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.16 vol%

\*1:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

\*2 電源停止作業に伴いデータ欠測のため、直近で計測できている2/19 5時現在の数値を記載。

[1号機]・H25/2/20 電源関係の工事に伴い、原子炉格納容器内への窒素ガス封入を一時停止予定。ただし、現在行っている原子炉压力容器内への窒素ガス封入については、停止しない。

[2号機]・H25/2/20~2/22 [3号機]・H25/2/25~2/27

原子炉注水設備において、3月に給水系の信頼性向上工事を予定しており、工事時に給水系からの注水を停止する予定。工事を行う前に給水系からの注水を上記の期間一時停止し、炉心スプレィ系(CS)のみの注水を実施し、原子炉の冷却状態に有意な影響がないことを確認する。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/19 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	10.5
2号機	循環冷却システム	運転中	12.0
3号機	循環冷却システム	運転中	9.6
4号機	循環冷却システム	運転中	21

\* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	2/18 14:12 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	2/15 13:55 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系\*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。なお、当該作業については、2月中旬まで、適宜、実施する予定。

\*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (2/19 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

## < 5 . その他 >

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8～ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

・H25/2/6 13:00 頃、3号機使用済燃料プール上部に残存する鉄骨トラス瓦礫の撤去作業を行っていたところ、油圧フォーク2台により吊り上げていた鉄骨トラス瓦礫が二つに破断。破断した二つのトラス瓦礫は、油圧フォークで把持した状態であったが、破断した片側のトラス瓦礫が使用済燃料プール内に留まった。同日 14:06 までに、二つのトラス瓦礫を油圧フォークで3号機原子炉建屋南側ヤードに移動。その後、当該瓦礫撤去作業前に使用済燃料プールに存在していた燃料交換機マストと思われる瓦礫が、作業後の画像において確認できなかったことから、2/7 13:00 頃、使用済燃料プール内に水没した可能性があるかと判断。2/13 10:36～14:24、水中カメラによる使用済燃料プール内の状態確認および燃料交換機マストと思われる瓦礫の状況について、調査を実施。調査の結果、大きさ・形状から燃料交換機マストと同定し、当該マストが使用済燃料貯蔵ラックおよびライナに直接接触していないことを確認。引き続き、2/14 から 2/18 にて水中カメラによる状態確認を実施し、燃料交換機マストの落下等による使用済燃料貯蔵ラック及びライナ等への影響は確認されなかった。

燃料交換機マスト: 燃料集合体を移動する際に使用する掴み具を昇降するための伸縮性のポール(長さ:約5～23m、重さ:約1.5トン)

・H25/2/20 1号機トラス室調査を実施予定。

以上